

日本海水学会若手会第13回学生研究発表会を終えて

朝本 紘充*

令和4年3月10日(木)、日本海水学会若手会主催の「第13回学生研究発表会」がオンライン形式により開催されました。本会は元々、千葉県千葉市の幕張メッセにて第10回(長崎県佐世保市)以来となる対面形式での2日間の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症に係る蔓延防止措置期間と重なってしまったため急遽、オンライン形式への変更を余儀なくされました。こうした状況のなか、全国から44名の方々にご参加いただきました。

この学生研究発表会は、未だ学会発表に至っていない萌芽的な内容も含め日頃の研究成果を発表する機会を学生諸君に提供することで、他大学の学生および教員・企業関係者らとの交流を促すことを目的としています。近年では新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、鳥根県松江市で予定されていた第11回は中止(要旨集は発行済み)、昨年(第12回)は全面的にオンライン形式での開催となりました。今回は直前でのオンライン形式への変更であったにもかかわらず、23件の口頭発表と16件のポスター発表の申し込みがあり、当日は大変活発な議論が行われました。なお口頭の発表時間は8分、質疑応答は3分といたしました。例年に勝るとも劣らない、周到に準備されたプレゼンテーションが多く、ほぼ予定通りの時間で進行することができました。

当日は9時30分からの口頭発表の後、16時から発表者ごとのブース(ブレイクアウトルーム)に分かれたうえで、ポスターセッションを行いました。ここでは、時間の関係から口頭発表の際に質問しきれなかった内容を中心に、さらなる深い議論が展開されていました。

ポスター発表終了後の17時30分頃より、こちらも恒例企画となった「企業研究会」を開催しました。第5回目となる本会は元々、日本海水学会若手会幹事が中心となって企業、学生および研究者らとの深い交流を促すためのイベントとして企画・立案したものです。企業・業界研究はこれから就職活動を行う学生はもちろん、既に進路が決定している学生にとっても将来に役立つ情報を得ることができる貴重な機会です。また、大学・研究所等に在籍する研究者にとっては社会的ニーズの把握や共同研究テーマの創出に繋がる可能性があります。企業・研究所等の関係者の皆様には本会を広報の場としてはもちろん、大学等がもつ「知」を活用するためのきっかけづくりになればと考えています。今回も製塩企業並びに日本液体清澄化技術工業会

(LFPI)の所属企業を中心に、次の計9団体の皆様にご参加いただきました。

[企業研究会参加企業一覧(順不同・敬称略)]

三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社
大塚実業株式会社
株式会社ニシヤマ
ナイカイ塩業株式会社
株式会社トーケミ
一般社団法人日本海事検定協会
リファインホールディングス株式会社
東洋スクリーン工業株式会社
野村マイクロ・サイエンス株式会社

具体的な流れとしては、事業内容を中心に初めに1団体あたり3分間程度のフラッシュプレゼンテーションを行ってもらい、その後ポスターセッションと同じ形式で聴講者との交流をしてもらいました。オンライン形式ではあったものの、本会も研究発表会と遜色のない盛り上がりを見せておりました。

企業研究会終了後、閉会式と併せて優秀な研究発表に対する表彰式が行われました。今回は最優秀賞1件、優秀賞4件の計5件が、参加者全員の投票により選出されました。

最優秀賞の受賞者は、群馬工業高等専門学校の木村一輝さん「非球形粒子群の粒子形状と濾過時の固液分離性」でした。また優秀賞の受賞者は、日本大学大学院の伊藤将吾さん「CO₂ファインバブルと非溶媒の併用によるCa(OH)₂懸濁液からの球状カルサイトナノ粒子の製造」、同じく日本大学大学院の松田ゆずはさん「産業廃棄物中のCaを活用したCO₂有効利用法の開発-CO₂ファインバブルを用いたコンクリート粉末抽出液からのCaCO₃の反応晶析」、室蘭工業大学大学院の坂脇大地さん「超高比表面積炭酸カルシウムの合成」、および千葉大学工学部の香川弘斗さん「水酸化カリウムを用いた廃ワイヤーハーネスからの銅回収」の4名でした。上記5名の受賞者の皆さん、本当におめでとうございました。

閉会式の最後、実行委員長である私から閉会の辞を述べさせていただきました。また、オンライン形式ならではの

* 日本大学生産工学部 教養・基礎科学系 (〒275-8576 千葉県習志野市新栄2-11-1)
TEL: 047-474-2860, E-mail: asamoto.hiromichi@nihon-u.ac.jp



写真1 オンライン形式での集合写真（閉会式）
 ※システムの都合上、上下で重複されている方が居られます。

集合写真をPC画面上のスクリーンショットにより撮影させていただきました（写真1）。

この度の学生研究発表会が盛会のうちに終了したのは偏に、日本海水学会若手会の皆様はもとより、多くの関係各

位のご支援とご協力があったからに他なりません。発表会の運営にあたっては海水総合研究所の佐々木貴明様、邑上泰平様をはじめ、日本大学生産工学部ご所属の実行委員の松本真和先生、岡田昌樹先生、亀井真之介先生、高橋智輝

先生に手厚いサポートをいただきました。また若手会副会長の倉科昌先生（徳島大学）、西田紀彦様（日本海事検定協会）および座長の諸先生方、お力添えいただき誠にありがとうございました。

最後に、ご多用のところご参加いただいた皆様に深謝いたします。

来年の3月には第14回目の学生研究発表会が、対面形式で行われることを期待しております（会場は検討中）。次回も皆様のご参加を心よりお待ちしております。

また、海水学会若手会では引き続き新会員を募集しております。入会金および年会費は無料です。とくに年齢制限はございません。ご興味のある方は学会ホームページより若手会のサイトにアクセスしていただき、本会の目的、活動内容等をご覧ください。ご賛同いただけたら是非、入会をお願いいたします。

今後も海水学会若手会へのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。